

最終更新日 H25.3.1
改修技術 No. 11114301

性能分野	耐久性・耐用性
大分類	劣化部分の補修、外力の緩和
中分類	設備機器の改修・更新
技術の名称	消火管等の更新工法
改修技術の概要	<ul style="list-style-type: none"> 消火管等の更新は、例えば施工性の容易なハウジング形管継手と軽量で耐久性の高いステンレス管を用いて行う。 平成 18 年、消防法施行規則の一部改正に伴い、屋内消火栓設備、連結送水管等の配管に耐久性の高い一般配管用ステンレス鋼管、配管用ステンレス鋼管の使用が可能となった。使用する配管・管継手・バルブ類は JIS 規格品、消防認定品とする。 連結送水管の場合、従来の圧力配管用炭素鋼鋼管と比較して、1/3 の重量に軽減されるため施工性の向上が図れるようになった。特に、薄肉管の一般配管用ステンレス鋼管は「ねじ込み継手」が施工できないため、ハウジング形管継手により接続する方式がシステム化された。このハウジング形管継手は給水管の更新にも使用されているが、消火用としては日本消防設備安全センターの認定を受けたものを使用する。 ハウジング形管継手による接続手順 <ol style="list-style-type: none">  ゴムリングの内面に潤滑スプレーを散布する。  ハウジングの内面に潤滑スプレーを散布する。  ステンレス管の端部に潤滑スプレーを散布する。  ゴムパッキンを片側リングの一部に押し上げる。  反対側の管を寄せて押しつける。  ゴムリングを押し両管の端部に均等にはめる。  ハウジングをゴムリングに正しくセットする。  ボルト・平ワッシャー・締め忘れ防止ワッシャー・ナットをはめて左右均等に締める。  締め忘れ防止赤ワッシャーを標準装着しています。 <p>(出典:消防法施工規則改正とステンレス配管資料 平成 24 年 5 月 ステンレス協会)</p> <ul style="list-style-type: none"> 工期期間 (施工準備～施工～検査～施工完了) 1 週間 (11 階 100 戸モデルの例) 改修後の性能 耐久性向上

共同住宅のタイプごとの技術の適用	技術の種類	<input type="checkbox"/> 調査・診断技術 <input checked="" type="checkbox"/> 改修技術（ <input checked="" type="checkbox"/> 劣化を補修する技術 <input type="checkbox"/> 性能を向上させる技術）	
	共同住宅のタイプごとの適用可能性	S55年以前供給 中層階段室・壁式(総プロA1)	使われる可能性が相当ある
		S55年以前供給 高層・ラーメン(総プロA2)	使われる可能性が相当ある
		S56～H2年供給(総プロB)	使われる可能性が相当ある
		H3～12年供給(総プロC)	使われる可能性が相当ある
		H13年以降供給(総プロD)	使われる可能性が相当ある
(補足) —			
常にセットで利用される技術	—		
技術が適用される建物の部位	<input checked="" type="checkbox"/> 共用部分 (<input type="checkbox"/> 躯体・外壁 <input type="checkbox"/> 屋根 <input type="checkbox"/> 建具 <input checked="" type="checkbox"/> 設備・配管等 <input type="checkbox"/> その他共用部) <input type="checkbox"/> 専有部分 (<input type="checkbox"/> 設備・配管 <input type="checkbox"/> その他専有部分) [設置・運営等で建築基準法以外に注意すべき主な法令がある設備 (連結送水管)] <input checked="" type="checkbox"/> 注意すべき主な法令 (消防法)		
団地で適用した場合のメリット	<input type="checkbox"/> 住棟まわりの土地が利用できること (仮設以外) () <input type="checkbox"/> まとまった土地が利用できること (仮設以外) () <input type="checkbox"/> 住宅の数が多く密度が高い () <input type="checkbox"/> 特定の設備があること ()		
足場の設置が必要	<input checked="" type="checkbox"/> 必要 <input type="checkbox"/> 不要 (消火管の設置位置によっては足場を設ける場合がある)		
工事による居住者への影響	数日以上居住できない住戸が発生	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 ()	
	一時的な影響が発生	<input type="checkbox"/> 断水などライフラインが一時的に利用不可 <input checked="" type="checkbox"/> 振動 <input checked="" type="checkbox"/> 騒音 <input type="checkbox"/> 粉塵 <input type="checkbox"/> 臭気 <input type="checkbox"/> その他専有部分又は専用使用部分に対する制限 ()	
	工事後に続く影響が発生	<input type="checkbox"/> 専有部分又は専用使用部分の使用に対する制限 () <input type="checkbox"/> 日照・採光等への影響 ()	
当該技術が利用される工事	<input checked="" type="checkbox"/> 計画修繕工事 (<input checked="" type="checkbox"/> 劣化の補修 <input type="checkbox"/> 性能の向上) <input type="checkbox"/> 耐震改修工事 (<input type="checkbox"/> 耐震性の向上 <input type="checkbox"/> 他の性能の向上)		
技術的境界	—		
参考資料	技術情報	・ 消防法施工規則改正とステンレス配管資料 (平成 24 年 5 月) ステンレス協会	
	価格情報	—	